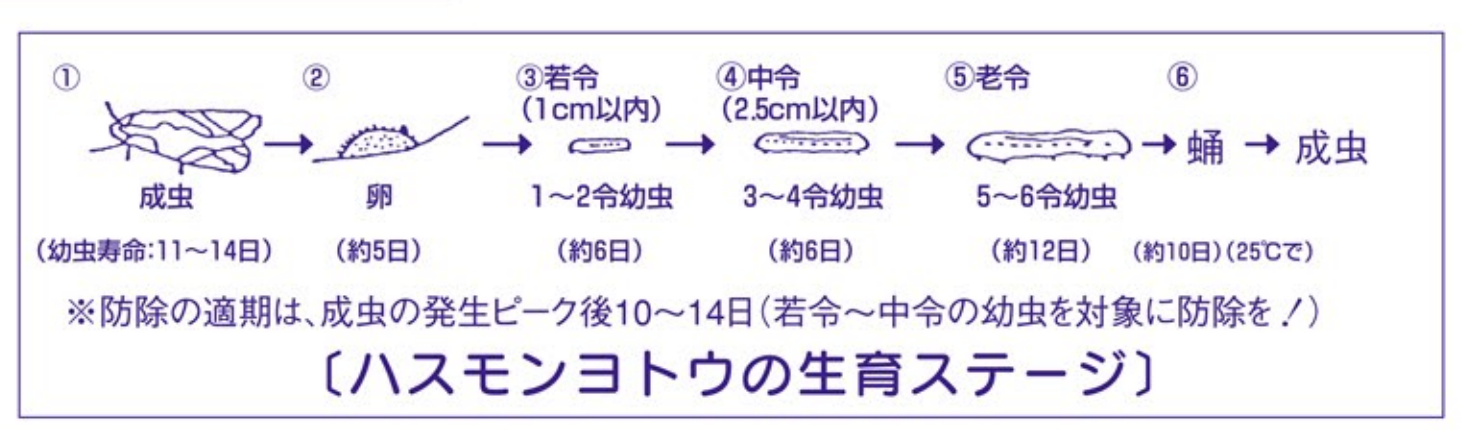
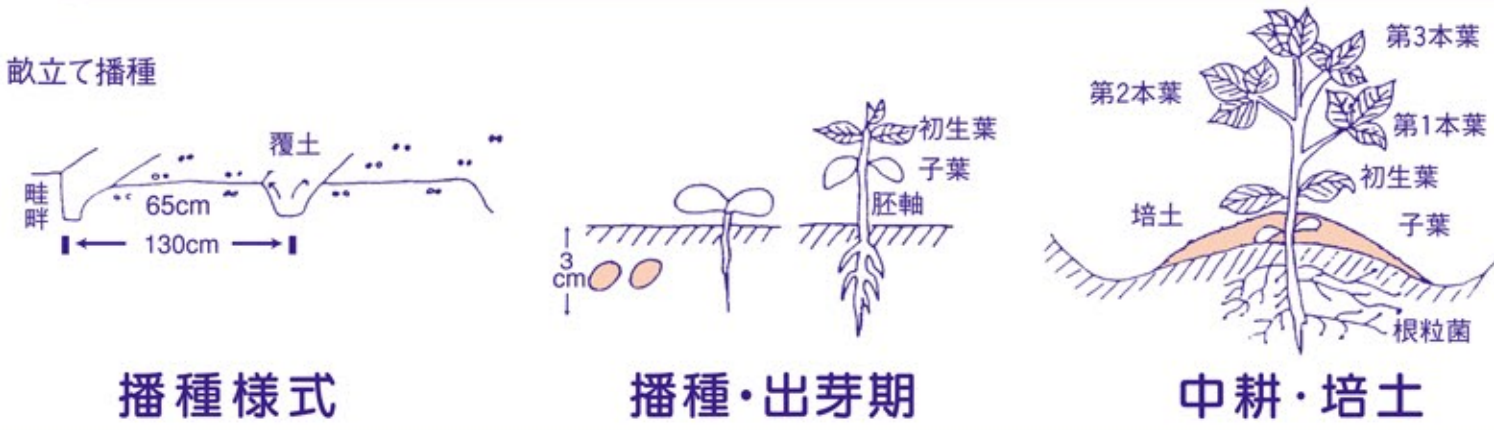


大豆栽培こよみ



時月	6			7			8			9			10			11			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
主な作業	適地の選定	土壌改良	鳥害防止	耕起・整地	耕起・種肥	除草剤散布	中耕・培土	追肥	害虫防除	害虫防除	病害虫防除	害虫防除				青立株採取	収穫	乾燥	調整
使用機械	暗渠の施工	ライムソウ		ロータリー	培土板	大豆播種機	散粒機又は動噴		ロタリーカルチ	培土機又は	追肥機	動力噴霧機	動力散粉機	ブームスプレーヤー		手作業	大豆専用コンバイン	汎用コンバイン	共同乾燥調整施設
作業内容	排水対策 水系別に集団化を図る。	地力増強 麦ワラすき込み。アツミン40kg/10a PHの矯正 目標PH6.5、炭酸苦土石灰160~200kg/10a	種子消毒 キヒゲンR-2フロアブルを種子5kgに100ml塗沫 (ハト害・紫斑病)	耕起・砕土 砕土を十分行う。	排水溝設置 周囲にやや深い排水溝を設け落水口へつなぐ。	種肥 P・K化成の散布を行う	雑草防除基準参照 P・K化成の散布を行う	は種時期と栽植密度参照	本葉2枚から4枚までに行う。 8月10日頃までに必ず2回は実施する(倒伏防止と雑草対策)。 アサガオ・ホオズキを手作業で取り除く。 ガードベイトAを10a当たり3kg散粒します。 ネキリムシ 生育初期までに大豆地際部の土壌表面に	生育不良の場合は開花期までにNK化成2号を10kg/10a施用する	白変葉が目立つてきたら薬剤による一斉防除を行う。 早めに手取りで除去する。 ハスモンヨトウのふ化幼虫が群集している白変葉を	※ハスモンヨトウの多発年は、液剤による徹底防除を行う。 紫斑病 カメムシ ハスモンヨトウ の薬剤防除(三種混合)	カメムシの薬剤防除(補正)	青立ち大豆や雑草は刈取前に抜き取る。	刈取時期は成熟期の7日後から(子実水分16%以下)				

品種特性表 (7月10日播)

品種名	開花期	成熟期	耐倒伏性	10a当り子実重	百粒重
フクユタカ	8月19日	11月3日	中	339kg	30.9g

施肥基準 (kg/10a)

大豆作付条件	肥料名	基肥	成分量			選播は ちくこのめくみ444 を使用する
			窒素	りん酸	カリ	
一般	PK化成40号	30		6.0	6.0	
遅播等	ちくこのめくみ444	15	2.1	2.1	2.1	

は種時期と栽植密度

品種名	フクユタカ (1株当り2粒)	
	播種期	7月21日~(遅播)
条間(cm)	7月5日~20日(適期播)	65
株間(cm)	30~20	15~10
10a当り播種量(kg)	3~5	6~9

雑草防除基準

使用時期	除草剤名	10a当り使用量	希釈水量	留意点
耕起前	ラウンドアップマックスロード	200~500ml	100ℓ	播種前雑草が多い場合 周辺の作物に飛散しないように注意
播種後~ 出芽前まで	ラクサー乳剤	400~600ml	100ℓ	土壌はできるだけ砕き、覆土は2~3cmとする。 ほ場が乾燥している場合は希釈水量を多くする。
	プロールプラス乳剤		100ℓ	
出芽前まで	ラクサー粒剤	4~6kg	-	覆土は2~3cmとし、よく整地して鎮圧する。 二重散布にならないように均一に散布する。

※中耕、培土による耕種防除も併せて行う ※イネ科雑草(3~10葉期)が残る場合は、ポルトフロアブルを10a当り200~300ml(希釈水量100ℓ)散布する。 ※大豆2葉期から開花期前に広葉雑草(生育初期~6葉期)が残る場合は、大豆バサグラン液剤を10a当り100~150ml(希釈水量100ℓ)散布する。

病害虫防除基準

時期	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	使用液量	備考
8月上旬中	ハスモンヨトウ	ノーモルト乳剤 又は プレオフロアブル	2,000倍	100ℓ	脱皮阻害剤
		ベガスフロアブル 又は プレバゾンフロアブル5	1,000~2,000倍		
8月下旬~9月中旬	ハスモンヨトウ	ベガスフロアブル 又は プレバゾンフロアブル5	2,000~4,000倍	100ℓ	
		カメムシ・子実害虫	4,000倍		
発生時 10月上旬	紫斑病	スミチオン乳剤	1,000倍	100ℓ	アブラムシに有効
	ハダニ類	トップジンM水和剤	1,000~1,500倍	100ℓ	
	カメムシ	ダニトロンフロアブル	1,000倍	150ℓ	補正
		スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	100ℓ	補正

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう

- ①大豆を栽培するほ場の周辺に作付けされる農作物の状況を確認し、防除日程等の連絡を徹底しましょう。
- ②ブームスプレーヤー(乗用管理機)や動力噴霧機で防除を行う場合は、ドリフト低減ノズルを使用するなどして、農薬の飛散を未然に防ぎましょう。

令和元年大豆栽培管理記入欄

★「作付品種名」「作付面積」「主な作業月日」を記入して下さい。

★使用された資材・農薬名に○と使用量を記入して下さい。

品種名	6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
フクユタカ	土づくり			種子消毒			中耕・培土			病害虫防除			収穫					
	/ ~ 日			/ ~ 日			/ ~ 日			/ ~ 日			/ ~ 日					
a	基肥			中耕・培土			雑草防除			病害虫防除			播種					
	/ ~ 日			/ ~ 日			/ ~ 日			/ ~ 日			/ ~ 日					

実施項目	資材・農薬名	○印	使用量	実施項目	資材・農薬名	○印	使用量	
種子更新購入量	品種名		kg	種子更新購入量	品種名		kg	
土壌改良資材	炭酸苦土石灰		kg	追肥	NK2号		kg	
	アツミン		kg					
	ミネラルG		kg					
種子消毒	キヒゲンR-2フロアブル		ℓ	病害虫防除	ノーモルト乳剤		ml	
	PK化成40号		kg			プレオフロアブル		ml
基肥	ちくこのめくみ444		kg			ベガスフロアブル		ml
						プレバゾンフロアブル5		ml
						スミチオン乳剤		ml
除草剤	ラウンドアップマックスロード		ml		トップジンM水和剤		ml	
	バスタ液剤		ml		スタークル顆粒水溶剤		ml	
	タッチダウンIQ		ml		トレボン乳剤		ml	
	ラクサー乳剤		ml		ダニトロンフロアブル		ml	
	ラクサー粒剤		kg		ガードベイトA		kg	
	ポルトフロアブル		ml					
	大豆バサグラン液剤		ml					
プロールプラス乳剤		ml						

※注意①:資材・農薬名のない場合は、空白欄に使用された資材名・農薬名と使用量を記入して下さい。

- *安定多収は土づくりと適期防除から
- *農薬購入の際は、印鑑が必要です。
- *農薬は保管庫等でしっかり管理しましょう!
- *一工程播種で適期播種を目指しましょう。
- *農薬のラベルをしっかりと確認して散布しましょう!